

平成 29 年度 第 3 回講演会 記録

日 時	平成 29 年 5 月 13 日 (土) 13:00~16:00
会 場	此花会館
講 師	NPO 法人・タイガフォーラム代表
演 題	ウスリータイガの自然と文化
備 考	参加者数 179 名 (会員 155 名、一般 23 名、聴講 1 名) 記録 西尾光市

《講演概要》

- ① **はじめに** ウデへの人びとが暮らすクラスニヤール村は、ロシア沿海部に横たわるシホテ・アリニ山脈の西側を流れるウスリー川の支流ビキン川の中上流域に位置。
- ② **100 年前、ある漁師がしたこと** 探検隊長ウラディミール・アルセーニエフがウデへの案内人デルス・ウザーラの依頼に応じて米、塩、マッチを分けてやると、デルスはシラカバの皮に包み、無人の小屋に残した。「君はまたここへ戻るつもりなのか？」聞くと、「いえ、ここに誰かべつのひとがきたときの備えにする。その人は死なずに済む」と。ウデへの人びとはこのように思いやりに満ちたやさしい人びとである。
- ③ **北方のジャングル？ウスリータイガ、一万年の森** 日本と同様、四季があり秋には見事に紅葉する広葉樹林帯は、我々がイメージする単調な針葉樹に覆われたシベリアの森とは一線を画す。
- ④ **ウスリータイガ その特徴** 朝鮮五葉松と広葉樹の混交。
- ⑤ **ウスリータイガの主、アムールトラ** 最も北に生息しているトラ。乱獲や森林破壊で生息数が激減。
- ⑥ **ウスリータイガの開発 19 世紀から今日まで** シベリア鉄道の敷設で森林開発が進み、日本や中国・韓国に向けて木材輸出がさかんに行われた。
- ⑦ **ウスリータイガと日本がつながった？ 1922 年のできごと** 1992 年、ロシア沿海地方知事が、ロシア・韓国の合弁企業にビキン川上流の森林開発を許可。チョウセンゴヨウマツ(ベニマツ)を新潟港経由で輸入。
- ⑧ **ロシアのアマゾン？ 野生の王国 ビキン川流域** 増水期に氾濫する湾曲した流域は肥沃で広大な自然を育み、ユーラシアカワウソ、イノシシ、アカシカなどが湿地や雪原にその足跡を残す
- ⑧ **ビキン川流域のタイガを守ろうと声を上げたウデへの人びと** 1992 年、ビキン川上流へ大規模伐採の危機が迫った。自分たちのタイガを子どもたちに残そうと、ビキンウデへの人々はタイガの村やウラジオストックなどの街で、座り込み、歌い、ビキン川流域伐採計画の見直しを訴えた。これに呼応した国際 NGO のアクションは伐採計画に対して、国際社会の関心と呼び起こした。
- ⑨ **タイガとひとつになって生きる「森の人ウデへ」** 満州-ツングース系の北方民族で「ウデゲ人」「ウデゲ族」と表記されたり、12 世紀の中国の歴史書に「森の民ウディゲ」として紹介。女真族、渤海国、金帝国の末裔との説もある。ソ連時代少数民族を建前上平等に遇した政策は現在に引き継がれ、彼らは胸を張ってロシア人と対等に生きている。
- ⑩ **ビキンのウデへ** 野口さんが親交を深めてきたクラスニヤール村の人々の生きざまを紹介。
- ⑪ **DVD『タイガからのメッセージ』** 2010 年～2011 年撮影の予告編映像を観賞
- ⑫ **ビキンのタイガと自然を残すために** 「ビキン国立公園」(面積 1 万 1000 平方メートル)が創設された
- ⑬ **クラスニヤール村の子供たちからのメッセージ** ローマ君 8 才「僕が好きなのはビキン川で泳ぐこと」、ナージャ嬢 10 才「わたしはクラスニヤール村が好き」、スベトラナ嬢 10 才「この生きものと自然が好き」
- ⑭ **ウスリータイガと私たちのゆくえは** シベリアの大河アムール川流域には広大な森林や湿地帯が広がるが農地化、都市化、森林火災、森林伐採などの危機に見舞われている。特に 20 世紀からロシア沿海地方で急速に進んだチョウセンゴヨウマツの森の減少は深刻である。



※会場の熱い関心を感じられたか、野口先生は、講演の後半には舞台から下に降りて熱弁をふるわれた。